

平成28年度第3回政策会議

日時 平成29年1月10日（火）15:45～16:25

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長

種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

1 函館市熱帯植物園に代わる新たな施設の整備に係る基本的な考え方(案)について

◎対応 齋藤土木部長 福田土木部次長
島田管理課長 小笠原施設管理課長 山本公園河川整備課長

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市熱帯植物園に代わる新たな施設の整備に係る基本的な考え方(案)について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

基本計画の実施方法を含め、内容について引き続き検討することとなりました。

◆ おもな発言 ◆

■ 齋藤土木部長

熱帯植物園の老朽化がかなり進んでいることから、熱帯植物園に代わる新たな施設の整備にかかる基本的な考え方(案)についてお諮りする。

■ 山本公園河川整備課長

現在の熱帯植物園の温室やサル山は、鉄骨の腐食やコンクリートの劣化の進行により継続的な使用が困難で、改築が必要な状況となっている。

また、特定動物であるニホンザルは、譲渡先の確保が困難であり、継続して飼育する必要があるほか、既存の熱帯植物等は根が複雑に絡んでおり、移植が困難であるなど、改築の際の課題となっている。

一方、北海道新幹線の開業効果などにより、函館市を訪れる外国人を含む観光客は増加してきており、湯の川地区においては、温泉など既存の観光資源や新たに完成したはこだてアリーナに加え、熱帯植物園に代わる新たな施設を整備することにより市民や観光客などの回遊性を高め、更なる賑わいを創出しようと考えたところである。

熱帯植物園はこれまでも市民や観光客に憩いの場として親しまれてきているが、新たな施設は、温泉街の近傍にあり海に面しているという立地の優位性とサル山などの資源を活かし、より一層魅力ある施設として「市民や観光客が四季を通じ憩い楽しむ公園」をテーマに整備することとし、次の5つの基本コンセプトイメージを基に具体的な施設を検討していくこととする。コンセプトイメージはエコ、花、

サル、眺望と水である。これらのコンセプトイメージを踏まえたうえで、考えられる基本的な施設を挙げると、

「エコなインドアパーク」は、再生可能なクリーンエネルギーを導入し、環境への負荷を軽減する施設。

「花の広場 色鮮やかな花を楽しむ」は、冬でも花木や花を観賞できる屋内施設でフラワーガーデンのような施設。

「サル山・展望・管理スペース」は、屋内外から温泉に入るサルを鑑賞できる施設で、餌やり体験など、サルの動きを楽しく見せる施設。

「カフェスペース 潮風を浴びる眺望」は、屋内カフェ施設や海岸線を眺められるテラス席など非日常を感じさせる施設。

「水の広場」は、幼児から大人まで海辺での水遊びを満喫できるとともに、足湯に入りながら保護者が子供たちの遊ぶ姿を見守ったり、海岸線を眺められるような施設。

「緑の広場」は、市民から観光客までが楽しめる緑地として整備することで、各種の体験型イベントの開催や子供たちが自由に伸び伸びと遊べる多目的な施設、などである。

今後は基本計画の策定を予定しており、公募型プロポーザルにより、幅広く提案を受けていきたいと考えている。その後、基本設計、実施設計、解体工事、建築工事と進めていきたいと考えている。

■工藤市長

花の広場は坪数に換算するとおよそ200坪か。実際のところ、200坪の花畑でインパクトがあるだろうか。

■中林副市長

現在の温室の面積と比較すると、実際には狭くなっている。通路のスペースを確保するとなればなおさら。一方で、サル関連施設は面積が増加している。

■工藤市長

サル山を始め、新たなサル関連の施設でかなりのスペースが使われることになる。その割に、花の部分が少ないのではないか。その辺の花畑やガーデニングのような規模だったり、単にプランターを並べるようなものではインパクトがない。

■齋藤土木部長

サル関連施設は夜間にサルを入れる管理スペースも確保する必要があるが、サル山の下を使用するなど、工夫することはできる。また、花の見せ方については、平面だけでなく、屋内であれば壁面なども利用できるので検討していきたい。

■工藤市長

この計画だとサルの施設に偏り過ぎている。確かに、冬場はサルが温泉に入っているところを鑑賞できるが、夏場はサルばかりでは魅力がない。外国人観光客は1回見るためには行くだろうけども、市民に何度も足を運んでもらうには、花の部分の魅力づくりが重要である。人が集まる施設とするならば、中途半端なことはだめだ。

■中林副市長

この内容では、冬は誰も行かないのではないか。例えば、既存の駐車場スペースを有効活用出来るのではないか。敷地の使い方をもう少し考えるべき。

■齋藤土木部長

プロポーザルをかける際には駐車場スペースも活用可能な敷地として公募する。目安の全体事業費を提示したうえで、コンセプトを基に、提案を受けることになる。あまり市のイメージを前面に出すと自由な発想が阻害されないかと危惧している。

■工藤市長

そもそも、色々なアイデアを募集するほどの施設ではない。花畑とサル山がメインになり、あとはどのように敷地を見せていくかを工夫するものだろう。計画策定のプロポーザルでちゃんとした提案が出るのかも疑問である。

■中林副市長

目安の事業費を提示したとしても、計画策定だけとなれば現実離れした無責任なプロポーザル計画が提出される可能性はある。

整備内容、方法なども含め、さらに検討する必要がある。

■種田企画部長

さらに検討を深める必要があることから本日はここまでとし、基本計画の実施方法を含め、時間をかけて引き続き協議していくこととしたい。